

RAILWAY VIADUCT DESIGN

鉄道高架橋デザイン

土木学会 景観・デザイン委員会 鉄道橋小委員会 著

鉄道高架橋デザイン

著者 (公社)土木学会 景観・デザイン委員会鉄道橋小委員会

A5判 260ページ(オールカラー)

発行 令和4年11月

定価 3300円(本体3000円+税10%)

主要目次

第1編 鉄道高架橋の技術的変遷を辿る

第2編 現代の鉄道高架橋

第3編 鉄道高架橋と高架下空間の幸せな関係を探る

第4編 鉄道高架橋の美学

カバーデザイン 二井 昭佳

(本文第1編より抜粋)

第1編 鉄道高架橋の技術的変遷を辿る



写真1-28 呉服橋交差点から東京駅方向を望む、中央線東京駅付近高架橋、駅舎と区道との関係に注目

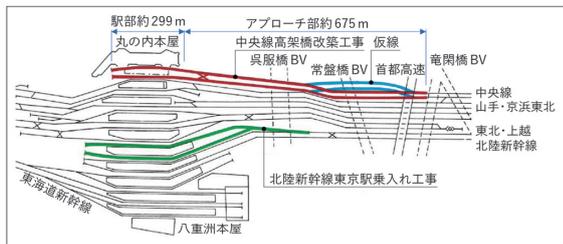


図1-4 中央線重層化位置平面図

3-2 デザインとエンジニアリングの融合^{16), 17)}

本件はJR東日本の自己資金による事業である。関係機関から景観に配慮するよう要請されていたJR東日本は表1-1に示す「景観設計検討委員会」と設計体制を組み、高架橋のデザインと構造の検討を行った。

(1) デザイン

景観設計の基本コンセプトは①土木構造物の持つダイナミック性を活かしながら人に優しい高架下空間の実現、歩道面の開放的利用の活性化を目指すこと、②東京駅丸の内本屋(赤煉瓦)との連続性や、近代的な業務用ビル

3. 中央線東京駅付近高架橋

集積地である周辺環境との調和を図ることとした。

これを受けて、高架橋の形を決める論理をどう展開したのか、当時MIA建築設計事務所所長の守屋弓男とともにデザインを担当した津國博英は次のように解説してくれた¹⁸⁾。

「鉄道は都市の景観を構成する動脈部分である。そのエッジ(緑、境界)には特殊な都市空間が生まれる。都市のエッジをどのように表現するかがこのプロジェクトの要であった。高架橋にすれば鉄道の下に必然的に空間が生まれるが、その空間の質がその境界とのつながりを大きく左右するのだ」。

エッジとはケヴィン・リンチが名著『都市のイメージ』で提唱した都市の形態要素のひとつであり、ここでは鉄道の境界に出現する高架橋下の空間をどう都市側と結びつけるかをテーマにしているのである。そして次のように続けた。

「とにかく、既存の高架下のイメージを払拭させたかっ

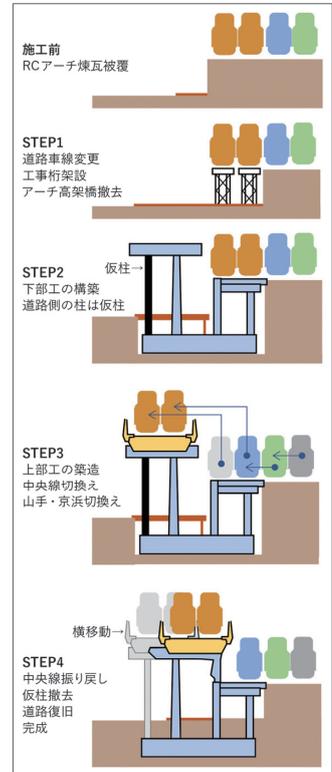


図1-5 高架橋施工順序図

第1編 鉄道高架橋の技術的変遷を辿る

株式会社建設図書

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-2-17
TEL:03-3255-6684

FAX
03-3253-7967

注文書

鉄道高架橋デザイン

注文冊数 _____ 冊

団体名
部署 _____

お名前 _____ TEL: _____

(〒 -)

送付先 _____

1:法人 2:個人

いずれかに○してください。